

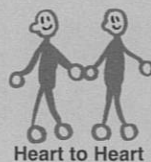
ともしび通信

コープともしびボランティア振興財団

〒658-0084 兵庫県神戸市東灘区甲南町2丁目1番20号(コープリビング甲南2階)

TEL078-412-3930 FAX078-412-3871

発行人=竹本 成徳 編集人=宮内 明彌



Heart to Heart

第39号

2004年4月発行

「地域を変えるのは、ひとりから」

環境ボランティアフォーラム

わたし発、地域発の環境活動

暮らしの場から活動を起こすには、を

今年度より、コープこうべの

買い物袋代金からの寄付を財源に、環境ボランティア活動への支援を行います。そのスタートにあたり、1月16日(金)、神戸市中央区の農業共済会館で、環境ボランティアフォーラム「わたし発、地域発の環境活動」を開催しました。環境ボランティアフォーラムは、暮らしの場から活動を起こすには、を、コープこうべ・環境推進室との共催で開催しました。基調講演では滋賀県環境生活協同組合理事長・藤井絢子さん



環境ボランティアフォーラム「わたし発・地域発の環境活動」暮らしの場から活動を起こすには、を

が、「琵琶湖の汚れはわたしたちの生活にも原因がある」と思い始めたせつけんづくり、リサイクルから、今は休耕田になたね

傾聴ボランティアフォローアップ研修

活動していくなかでの悩み、喜び、手ごたえ... 「寄り添い」ことの大切さをじっくり再確認

2003年度、当財団の「傾聴ボランティア講座」を受講された中から、秋頃から活動をスタートさせている方たちがおられます。活動は目下、主に高齢者対象ですが、実際にやってみての悩みや困った経験、また喜びや活動の手ごたえなどを出しあい、これからの活動をより充

実させていけるよう、3月2日(火)、塚口コープセンターで、講座講師をお願いした長尾文雄さんをアドバイザーに、フォローアップ研修を開催しました。集まったのは、協同の苑・Kメゾンときめきと、シルバークロス甲子園の2施設で主に痴呆の高齢者をお相手に傾聴活動

を植えてもらって、なたね油を化石燃料の代わりにする「菜の花プロジェクト」に取り組んでいます。町長も町の大人も子どもも巻き込んで、目に見えて、まちが変わっていくのを実感しています。「まちの人たちは、なぜやっているのか?それは、おもしろいから。楽しいからなんです」「テレビコマースィヤルに勝つのは、口コミと人の信頼。肩肘張った活動は続かない」と刺激に富んだ実体験を披露。

その後、当財団が助成する「虹つ子エコチャレンジ」の佐藤和子さん、「エコグループ・武庫川」の伊藤益義さんからの活動報告、講師、参加者を交えた参加型パネルディスカッションを展開。問題意識をどんなふう

をされているボランティア8名。少人数でじっくり話し合う時間をとることができました。

「相手から何の反応もないとき、どうしたらいいかとまどろ」

「戦争体験など、触れてほしくないと思っておられる話題になってしまったとき、どうしたらいいか」といった悩みの一方、「どんな人にも歴史がある、そう思えば、いずれ自分も痴呆になるかもしれない」「このボランティアをされている間の時間

形にしていくかを参加者と共有しあいました。

参加者からは「大変頼もしいお話だった」「ひとりからでも始められるというのに勇気づけられた」「とても中身が濃く、楽しかった。楽しみながら、わたしにもできるかも!?!と思えるフォーラムだった」といった声が寄せられました。



はゆったり流れ、慌しい日常の時間と違う。そういう時間を与えてもらっているのだと思う」

「痴呆の方に気持ちを通じたときは、こちらが救われる」など、この活動ならではの「手ごたえも語られました。長尾先生からは

「痴呆であっても対応を変えない」「相手にあわせるだけでなく、判断の押し付けでない」「わたしはこう思う」を伝える」などの助言をいただき、密度の濃い研修になりました。